

～ 気候変動の影響と取組 ～ ～ 鹿児島県の「農業分野の適応策」について～

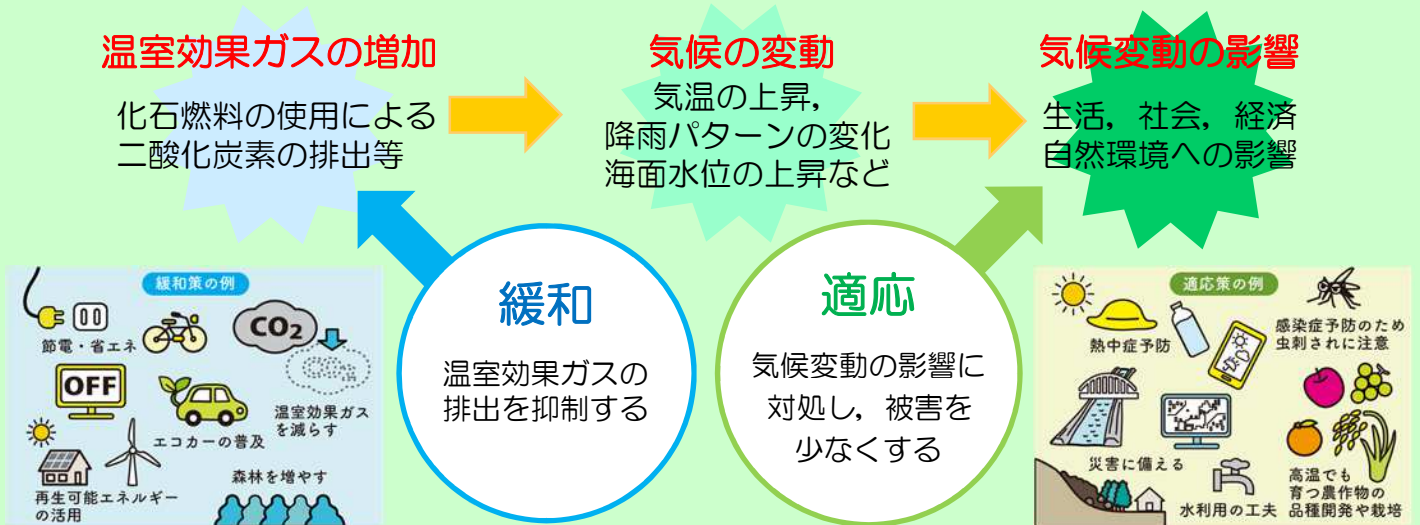


鹿児島県農業開発総合センターの「稲」の研究風景



世界各地で地球温暖化の影響により気温の上昇などが起こり、異常気象や自然災害の発生などの気候変動の影響が現れています。気候変動は、私たちの食料や健康にも様々な影響を与え、その影響は今後さらに大きくなっていくと言われています。今回は、鹿児島県の農業分野における適応策について紹介します！

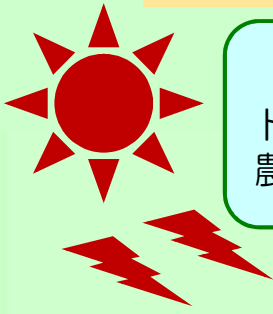
○ 気候変動には、「緩和」と「適応」の2つの対策が必要です。



※ 気候変動適応情報プラットフォームの資料を基に作成

鹿児島県気候変動適応センター

気候変動の農業分野への影響の報告例



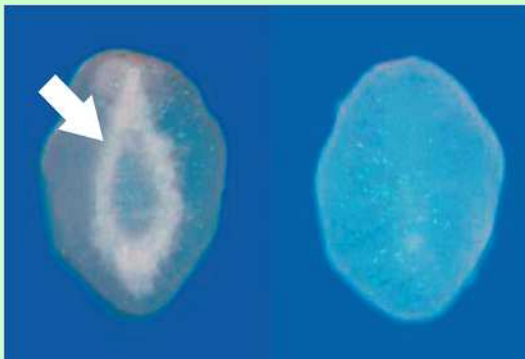
農業分野では、気候変動の影響として、水稻の白未熟粒、トマトの裂果、ブドウの着色障害、ミカンの浮皮の発生など、農作物の品質低下が報告されています。



©鹿児島県ぐりぶー



※ 気候変動適応情報プラットフォームで公開されている素材を使用して作成



①コメの白未熟粒
(デンプンの蓄積が不十分なため白く濁って見える米粒)



②トマトの裂果

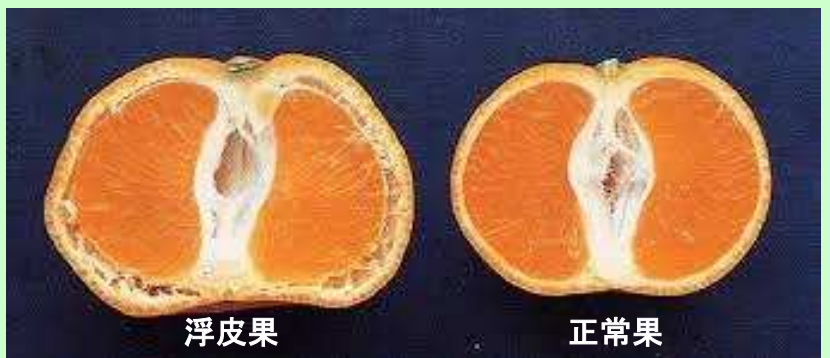


③リンゴの日焼け果



着色良好果(左)と着色不良果(右)

④ブドウの高温による着色障害



浮皮果

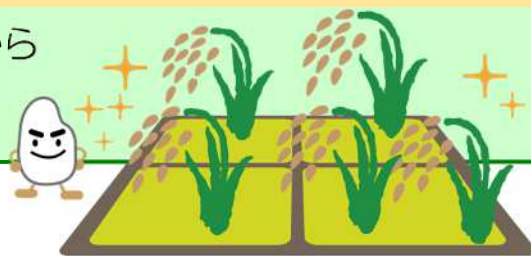
正常果

⑤ウンシュウミカンの浮皮

※ 画像 農林水産省「地球温暖化調査レポート」

気候変動に適応した水稻 「あきほなみ」と「なつほのか」

鹿児島県では、暖かい気候を活かして7月中旬から収穫する「早期水稻」と10月上旬から収穫する「普通期水稻」があります。



適応する「稲」の品種開発



早期栽培米としては、高温登熟性が優れ高品質で収量性が高く、食味が優れる「なつほのか」を平成26年に育成しています。

「なつほのか」の特性
 ○登熟期の高温に強く、玄米外観品質は、「コシヒカリ」や「イクヒカリ」より優れ、極良食味

鹿児島県では、高温障害を受けにくい品種（普通期栽培米）として、「あきほなみ」を育成し、本県独自のブランド米として、平成21年に販売が開始されました。



高温に強い「なつほのか」は、白濁が少ない
 ※ 鹿児島県農業開発総合センターから情報提供

「あきほなみ」の特性
 ○「ヒノヒカリ」に比べ出穂期が遅いため、高温障害を受けにくい品種
 ○稈長・穂長・穂数ともに「ヒノヒカリ」と同程度で、「ヒノヒカリ」に比べて倒れにくい特性
 ○粳と玄米の大きさは「ヒノヒカリ」に比べて大粒
 ○食感は粘りが強く、食味評価は「ヒノヒカリ」と同程度の極良食味

本県の温暖な気候と気候変動に適応した野菜の栽培

4～5月に収穫するニンジン、肥大促進や収穫前の抽苔（とう立ち）回避のため、コストと労力を要するポリフィルム等によるトンネル栽培が行われています。気候変動の影響を受けて冬季の平均気温が上昇してきたことを踏まえて、簡易被覆や無被覆でのニンジン低コスト栽培技術が開発されました。



トンネル栽培

1～2月収穫のレタスでも、気候変動に適応した栽培技術が確立されています。

大隅地域：10～5月の平均気温が13℃程度の地帯

不織布べたがけマルチ栽培で10月上旬～11月上旬播種



不織布べたがけマルチ栽培

熊毛地域：10～5月の平均気温が16℃程度の地帯

無被覆マルチ栽培で10月下旬～11月下旬播種



無被覆マルチ栽培

※ 鹿児島県農業開発総合センターから情報提供

気候変動に適応した落葉果樹品種

着色しやすく高糖度の赤色系新品種
「クインニーナ」



新品種
クインニーナ

既存品種
安芸クイーン

特性

- 既存赤色品種より着色に優れ、裂果少
- 香りがあり糖度が高く、高い食味評価

栽培ポイント

- ◆環状剥皮で赤色向上
- ◆花穂整形や無核処理法などの栽培方法は「ピオーネ」に準じる

【H23農研機構育成】

香り高く上品な緑色系新品種
「シャインマスカット」



新品種
シャインマスカット

特性

- 果粒は巨峰並みに大きく皮ごと食べられ、高糖度
- 温暖化による着色不良の影響を受けにくい

栽培ポイント

- ◆樹勢が旺盛、樹冠拡大が早い、栽培易
- ◆かすり症が発生するので適期に収穫

【H18農研機構育成】

暖地でも安定生産できるナシ品種
「凧夏」（りんか）



凧夏

幸水

特性

- 盆前の高単価期に収穫
- 着花数が多く、安定して高収量
- 「幸水」に比べ、大玉で糖度は同程度に高く、良食味



凧夏

幸水

低温不足の年にも花数が多い

栽培ポイント

- ◆ナシ栽培地域における早生品種として活用

【H27農研機構育成】

※ 鹿児島県農業開発総合センターから情報提供

鹿児島県農業試験研究推進構想

●本県の農業を支える試験研究の基本方向や推進施策が、「鹿児島県農業試験研究推進構想」で示されており、本構想の中で「気候変動への対応」が示されています。

＜主な研究例＞

- ①気候変動への適応、温暖化利用技術
- ②気候変動に対応できる品種の開発・選定
- ③高温及び低温等、気候変動による障害を回避する技術開発
- ④気候変動による新たな病害虫への対応技術開発
- ⑤降灰対策技術の開発
- ⑥温暖化等の気象変動に対応した生産性の向上（各畜種ごと対応）
- ⑦暑熱対策など地球温暖化に対応した飼養管理技術の確立 等



©鹿児島県ぐりぶー・さくら

鹿児島県気候変動適応センター

〒892-0835 鹿児島県鹿児島市城南町18番地 鹿児島県環境保健センター内

TEL:099-225-5133 FAX:099-225-5140

メールアドレス kgp46-ccac@pref.kagoshima.lg.jp

ホームページ <https://www.pref.kagoshima.jp/kurashi-kankyo/kankyo/ondanka/tekiou-center/index.html>

QR

令和4年9月発行